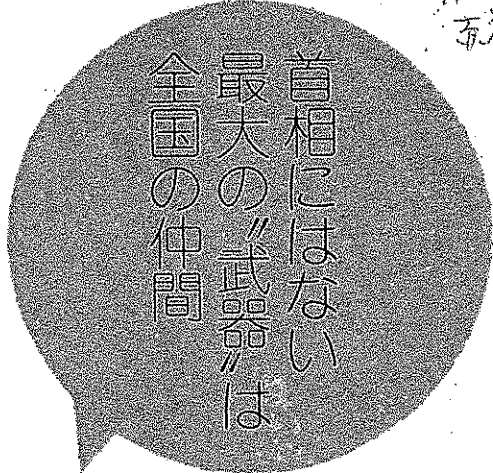


12万人が国会に押し寄せた8月30日、各地で新しく生まれた戦争法案に反対する若者の自発的な団体が、初めて国会正門前で連携して行動しました。30日に向けて、若者たちはどう歩みを進めてきたのでしょうか。

(玉田文子、土田千恵、前田智也)

9/2
五旗



人々が来ました。一緒に頑張る仲間がいる。そして全国各地に同じ思いを持った仲間がいる。それだけで本当に心強いんです。私たちは人の命を奪うことが、どう頑張っても持てない最大の武器をもっています。人とのつながりです。これが、私たちの武器です。これからは人の命を奪うことが、どう頑張っても持てない最大の武器をもっています。

戦争法案阻止

「前へ」。午後1時40分、雨にぬれた人々がひしめき合う中、そう繰り返す若い声が耳に届きました。若者たちの大きなメガホンが歩道からあふれた人々を導きながら国会正門前の道路へ躍り出ました。一番先頭、一番真ん中で「安倍は辞めろ」「戦争反対」と顔をくしゃくしゃにしながら叫び続けたのは、大学生と高校生でした。

☆パス手配

8月29日の「安保法制に反対する全国若者記者会見」に参加した各地の若者グループ

名称	主な地域
SEALDs (学生愛国党)	東京
SEALDs TOHOKU	宮城
SEALDs KANSAI	関西
SEALDs KYUSHU	九州
しーごぶ。(Shiga Constitution Peace)	滋賀
FDFA (Fukuoka Democracy Against War for Life)	福岡
FYM (Fukuoka Youth Movement)	福岡
WDW (We Disagree with War in Kumamoto)	熊本
T-ns Soul (ティーンズソウル)	高校生

若者たちつながる



シールズのリードで戦争法案廃案と安倍政権退陣を訴える人たち。8月30日、国会正門前。



長崎の若者で結成された「N-DOVE (エヌドブ)」のメンバー、森野さん(19)も訴えました。

「戦後70年、長崎はずっと平和を祈り続けてきました。しかし、この戦争法案は僕たちの祈りを怒りへと変えました。いてもたってもいられず今日(30日)までここに立っています。もう自分の未来を人任せにすることはやめたい。僕らはこれなかったN-DOVEのメンバー、あの灼熱の中で死んでいった無数の命、今も命をかけて核兵器廃絶を訴え続ける被爆者とともに声を上げます」

SEALDsの学生もあいさつしました。

「ここにいる若者全員、自分の頭で考え、自分の意思で自分の足でここまで来ている。一人ひとりが自分で責任を負って主権者として声を上げていく。そんな人が全国からこれだけ来ると、ときどきしてきます。日本の民主主義の成長スピードは、今ここから半端じゃなく加速して、どんどんよくなっていくと思います」

高城県でデモなどを行う「SEALDs TOHOKU」の声を上げる若者たちの団体は増え続けています。これからの団体は8月28日にU(シールズ東北)、大坂で民主主義を訴える「SADL(サドル)」、高知で署名などを行い戦争法案にあらがう「PEPAL(ペダル)」、熊本の本の学生、半者を中心にデモを行う「WDW(ダブルユーディーダブルユー)」。2013年12月の秘密保護法強行、14年7月の集団的自衛権行使容認の閣議決定、今年5月の戦争法案国会提出と安倍政権が突き進むなか、全国各地で自発的に「民主主義を守れ」「戦争反対」「憲法を守れ」の声を上げる若者たちがあふれ出しました。

東京都内で行った記者会見で、若者たちがつくる12団体の代表が初めて一瞥(ひと)づいてを話していました。

運動の原動力に福岡で行動するFYM(エフワイエム)のメンバー、後藤宏聖さんの話。30日の行動を目的に集まり、同じ思いの仲間たちが集まって、何ができる、と思えるようになった。東京だけでなく終わらずに福岡でも継続して行動

「ここにいる若者全員、自分の頭で考え、自分の意思で自分の足でここまで来ている。一人ひとりが自分で責任を負って主権者として声を上げていく。そんな人が全国からこれだけ来ると、ときどきしてきます。日本の民主主義の成長スピードは、今ここから半端じゃなく加速して、どんどんよくなっていくと思います」